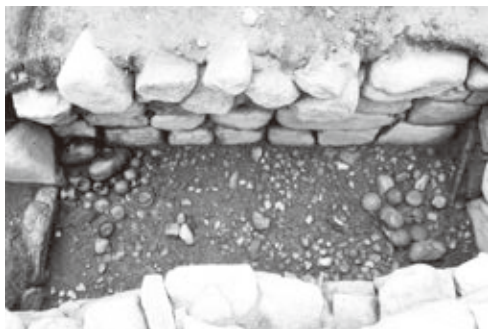


北牧野古墳群

大規模な群集墳

北牧野古墳群は、知内川の支流で、マキノ高原付近を流れる斧研川(おきりがわ)周辺に分布しています。分布調査や測量調査によって、これまでに100基を超える古墳が確認されており、大規模な群集墓であつたことが明らかになっていきました。この地域周辺では今でも墳丘や石室の痕跡を見ることができま

す。平成11年には県の文化財保護協会と教育委員会による調査が行われ、北牧野古墳群の中でも特に



北牧野2号墳石室内遺物出土状況
※現在は埋め戻されています

規模が大きく、墳丘の残存状況が良好な2基の古墳が測量調査で見つかりました。2基の古墳は、2号墳・3号墳として発掘調査が実施されました。

2号墳

2号墳の墳丘の規模は直径15m、高さ1・5mで、内部から横穴式石室が検出されました。遺体を安置する部屋とされる「玄室」では、奥の壁あたりにベンガラが塗布され、銀製耳環、金銅製単龍環頭大刀が当時のまま置かれていました。ベンガラ塗料は特別な空間を創り出す際に塗付されていたもので、その近辺に耳環が置かれていたことから、奥壁に頭を向けて遺体が安置されていたと考えられます。

3号墳

3号墳の墳丘の規模は直径17m、高さ1・8mで、2号墳よりもやや大きなものです。横穴式石



金銅製単龍環頭大刀(部分)
この大刀のほか、発見された副葬品は、現在、東京国立博物館に所蔵されています。

室の玄室からはベンガラ塗料は確認されませんでした。銀製耳環が3つと、三輪玉と呼ばれる大刀に裝飾されるものが見つかりました。この状況から少なくとも二人が埋葬され、本来は裝飾大刀が副葬されていた可能性があります。

北牧野古墳群の造営者

北牧野古墳群の周辺には、製鉄遺跡が多く見られます。例えば、旧今津町に分布する甲塚古墳群では製鉄に関連する遺物が一点検出されており、製鉄遺跡である東谷遺跡が隣接しています。また、同じく旧今津町の妙見山古墳群からも製鉄に関連する遺物が見つっています。このように製鉄と古墳群は密接な関係にあると考えられ、北牧野古墳群と周囲に分布する製鉄遺跡にも同様の関係が想定

されます。こうした想定に基づくと、北牧野古墳群は製鉄技術をもつ集団の群集墓であり、金銅製単龍環頭大刀や三輪玉が副葬されていた2号墳・3号墳は製鉄技術者集団の首長の墓であつたと考えられます。

岡文化財課

(25) 8559

編集 雑感

芸術、文化やスポーツを満喫した秋が過ぎて、季節はたちまち冬へ。暖房器具や冬物衣類の準備はお済みでしょうか。

今月の575のコーナーには、そんな師走や新年を迎えるための準備や冬支度のようにすが詠まれた句が多くみられます。

冬支度といえば、今どきはインフルエンザの予防接種も欠かせません。この冬を元気に乗り切るため、「インフルエンザに備えよう」を参考に、健康管理を心がけましょう。(YK)



広報たかしま

令和元年

12

月号

No.239

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
〒502-1-502 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp